

胃がん検診を申し込まれた方への大切なお知らせ

胃がん検診をお受けになる前に必ず全ての項目をご確認ください。

バリウムによる胃がん検診を希望されても、体質や過去の病気によっては、アレルギーによる重篤な症状がでたり、バリウム腸内で固まって腸閉塞を起こしてしまったりなど、検診を受けることによりむしろ不利益を被る場合があります。安全に検査を受けるために、次の項目を必ず確認してください。

① 次の項目に該当する方はバリウムによる胃がん検診を受けることはできません。

医療機関にご相談のうえ他の方法で胃がん検査を受けてください。

- 過去に検診で発疹等のアレルギー症状が出たことがある方。
- 妊娠中、または妊娠の可能性がある。(授乳中の方は可能です。)
- 肺の病気で、手術によりどちらか片方の肺がない方、または、常時酸素吸入をしている方。
- 腎不全にて現在透析中で水分制限を受けている方。
- 身長が 195cm 以上、または体重 135kg 以上の方は撮影装置の問題から検査できません。

② 次の項目に該当する方にはバリウムによる胃がん検診をお勧めできません。

他の方法で胃がん検査を希望される方は医療機関にご相談ください。

- 腸閉塞や腸ねん転、大腸憩室炎と診断され治療を受けたことがある方。
- 過去の検診でバリウムを誤嚥した(気管に入った)ことがある方、日常的にむせやすい方。
- 寝返りや立つ時に日常的に介助が必要な方。

③ 次の項目に該当する方は主治医にバリウムによる胃がん検診の可否について相談してください。主治医の許可があれば受診できます。

- 食道・胃の外科的手術もしくは内視鏡治療をして1年以内、または食道や胃の疾患で経過観察中の方。
- 大腸・小腸の外科的手術をして1年以内または内視鏡治療をして3か月以内の方。
- 肝臓・膵臓・胆のう・婦人科等の手術(腹腔鏡下手術も含む)をして6か月以内の方。
- 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)で治療中の方。

<当日の注意>

- ・検査前に飲食してしまった方や、朝にインスリン注射や血糖降下剤を服用してしまった方は、当日の検診は受けられません。日程を変えて受診するか、主治医にご相談ください。
- ・検査台の上で体位変換がひとりできない、あるいは、握り棒を持って体を支えることができないなど、体の状態により、転倒などの危険性を考慮し検査の中断やお断りすることがあります。